

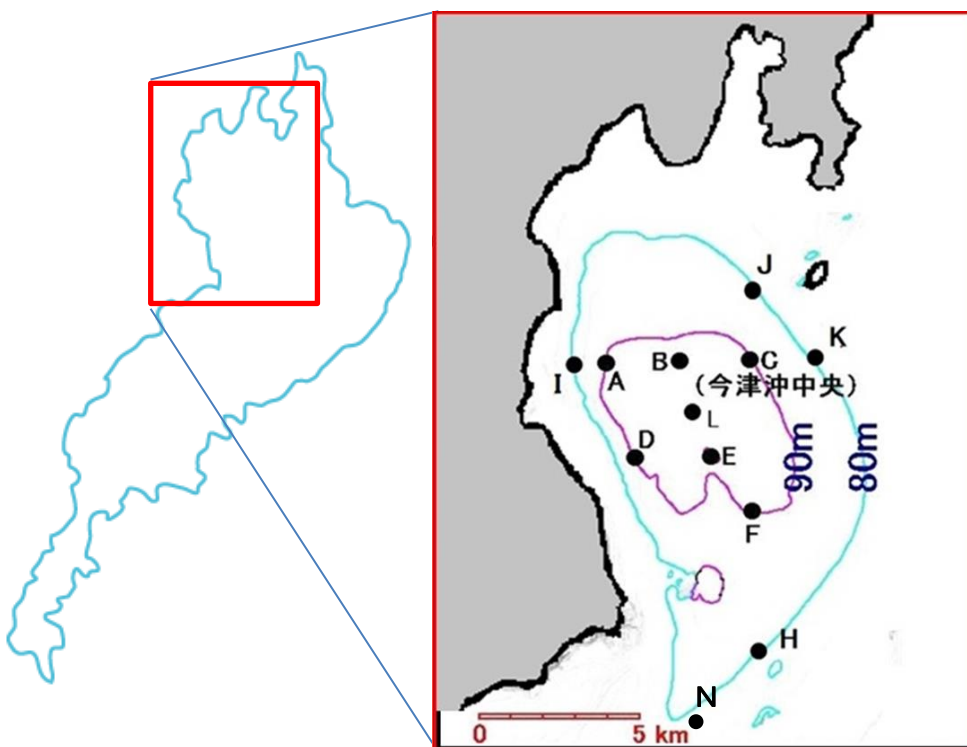
北湖底層DO調査結果（速報）

すいおんやくそう

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層の**溶存酸素(DO)**が低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬季に湖水の全層循環が起こり、底層まで酸素が供給されDOが回復します。

滋賀県では、北湖の底層DOの状況を把握するモニタリング調査を実施していることから、その結果をお知らせします。

調査地点



今津沖第一湖盆中央(水深90m)
およびその周囲の調査地点

C、F、L点：定期調査

A、B、C、D、E、F、L：詳細調査

K、H、I、J、N(水深80m)：詳細調査

湖底直上1mを調査

※底層DOの状況に応じて、地点数等を変更することがあります。

令和7年度の北湖底層DO調査結果（速報）

単位：mg/L

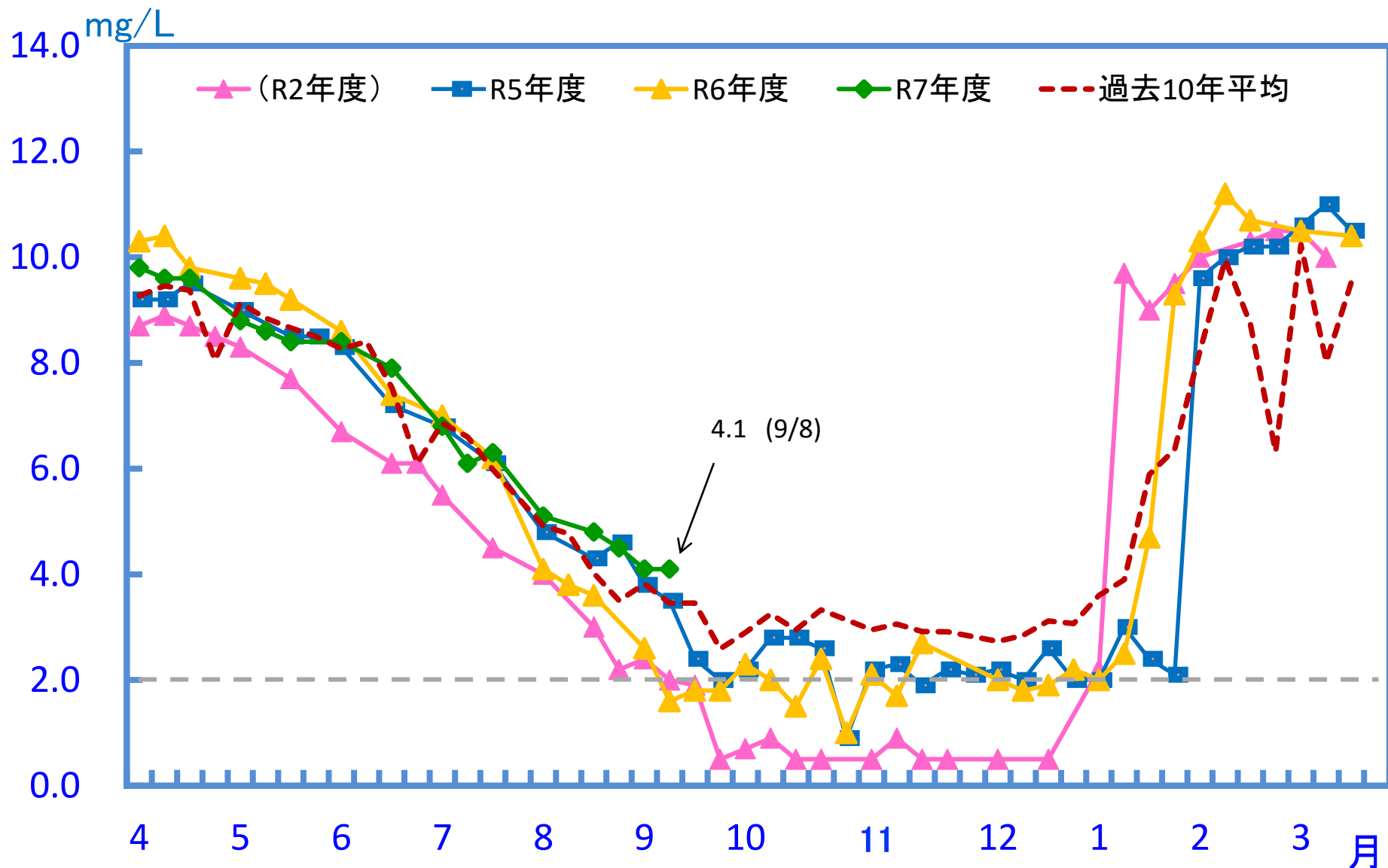
調査日 調査地点	6月		7月			8月			9月	
	6/9	6/23	7/7	7/15	7/22	8/4	8/18	8/25	9/1	9/8
A		7.2			6.0		4.1			1.5
B										3.0
C(今津沖中央)	8.4	7.9	6.8	6.1	6.3	5.1	4.8	4.5	4.1	4.1
D		7.4			6.8		5.2			4.0
E										3.7
F	8.1	7.5	5.9		5.9	6.1	4.6		3.9	3.6
L(第一湖盆中央)	8.1	7.2	6.1		5.8	4.7	4.8		3.5	3.0

注1：表中の黄色部分は貧酸素状態（2.0mg/L未満）、オレンジ部分は無酸素状態（0.5mg/L未満）の結果を示します。

注2：風などの気象条件や底層DOの状況に応じて、地点数や範囲を変更することがあります。

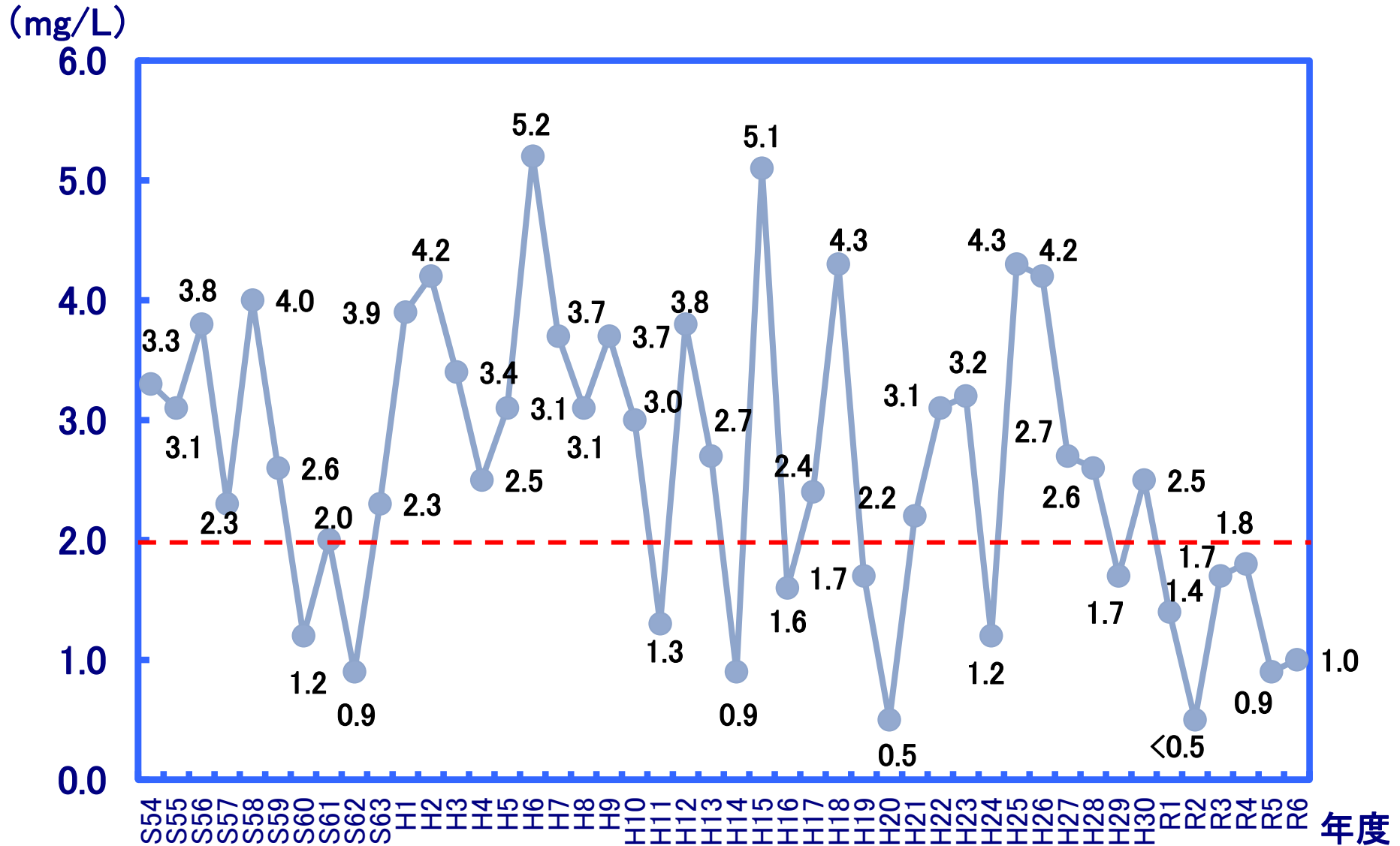
データ：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

C点における底層DOの経月変動



注：令和2年度は、前年度の冬に全層循環が未完了であった影響により、例年よりも底層DOが低下した特異な年であるため記載しています。

C点における底層DOの年度最低値



※H18以前は月2回、H19以降は月3～4回の調査頻度

データ: 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター